



岩手県ホッケー協会の取り組み

岩手県ホッケー協会は昭和37年に発足し、主に岩手町で活動しています。当協会の主な取り組みを紹介させていただきます。

IBC杯

昭和56年より(株)IBC岩手放送と(株)岩手日報社の共催のもと開催されている大会で、今年度で42回を迎えました。中学生と高校生を対象に、以前は東北のみの参加でしたが、現在は関東や関西からの参加希望があり、本県を軸にホッケー競技が大変盛り上がる大会となっています。

ジュニア体験育成事業

2016年岩手国体以降、ジュニア世代の強化を主に取り組んできました。ジュニア世代の育成や強化指導としては、県体育協会の国体強化事業であるジュニア体験育成事業を活用し、県内外のオリンピックや海外から指導者を招聘して子ども達へ直接ご指導いただいております。将来の子ども達の夢であるオリンピックやレベルの高い指導者から直接指導していただくことにより、一流を身近に感じながら子ども達に夢をより具現化することができ、またプレーに親しみを感じながら競技力の向上を図ることができます。



連携事業

県いわてスーパーキッズ事業には第1回から協力し、連携をとりながら事業を行っています。

今年度は9回の体験事業を行い、北京五輪に出場した早野みさきさん(旧姓:小沢)やロンドン五輪に出場した松村泉樹さん(旧姓:田中)を指導者として迎え、

直接ご指導いただきました。プレーだけでなく挨拶や礼儀など、スポーツマンとして必要な資質の指導も行っています。

また、沼宮内高校女子ホッケー部がサポーターとして参加し、スーパーキッズの皆さんに楽しくプレーしていただくお手伝いをしています。



昨年度は東京オリンピック代表選手による指導も行われました。

成果と今後の課題

東京オリンピックに出場した田中海渡さん、及川菜さん、瀬川真帆さんの3名を含む計5名のオリンピックの誕生に加えて、これまで日本を代表する選手を数多く輩出しています。

現在でもU12世代からシニア世代に至る各世代別において、日本代表選手を輩出しています。

少子化に伴い、競技者人口が減少している昨今ですが、このような状況下にあっても県ホッケー協会一同は、関係団体と協力しながら「アスリートファースト」で、ホッケー競技の普及と発展のために取り組んでまいります。



東京オリンピックの事前合宿でアイルランド女子ホッケーチームも来町されました。